



田中絹代ぶんか館

S himonoseki Topics

しものせきトピックス



田中絹代ぶんか館・ペンギン村オープン

2月13日、田中町に市立近代先人顕彰館「田中絹代ぶんか館」がオープンしました。単独女優の記念館としては日本初です。その記念行事として、13・14日に宝くじ助成を受けた開館記念シンポジウムもありました。

オープンの13日は、俳優の松坂慶子氏や奥田瑛二氏らが同館を訪れ、下関が生んだ大女優田中絹代の遺品や写真に興味深く見入っていました。

3月1日には、海響館（あるかぼーと）に新展示施設「ペンギン村」がオープンしました。亜南極ゾーンにある世界最大級のペンギンプールを飛ぶように泳ぐペンギンたちのスピードに、訪れた多くの人は驚いていました。

海響館ペンギン村



入江和作邸跡（赤間町交差点付近）

唐戸のバス停から海を背にして北へ2分ほど歩いた赤間町交差点付近に、龍馬も訪ねた入江和作邸がありました。入江和作は、酔の醸造業で富を築いた「奈良屋」の当主で、赤間関の一代大年寄を務めた人物です。入江家でかくまわれたことのある筑前の勤王歌人・野村望東尼が家族にあてた手紙によると、入江家には、ピロートなどをふんだんに使った衣類や布団、朱



龍馬紀行 入江和作邸跡

幕末の混乱期に、その財を勤王活動に注いだ和作は、勤王の志士たちから支援者として知られていました。慶応元年（1865年）閏（※）5月1日に、薩長和解の地ならしに來關した龍馬も、この「支援者」を紹介され、同家を訪ねたのでした。薩長和解に向けた桂小五郎との会談は、それから数日後のことです。

当時、敷地が唐戸湾に面していた入江邸。薩摩へも続く眼下の海峡を眺めながら、龍馬は来るべき桂との会談に、日本の未来を思い描いたことでしょう。

檀の机など高価な品がそろえられていたとのことなので、入江家の財力は、かなりのものであったと考えられます。



問い合わせ 長府博物館 ☎245-0555

※太陰曆で曆が実際の季節とずれるのを防ぐために挿入される月

下関ふくの日まつり

2月11日、「下関ふくの日まつり」が南風泊市場（彦島西山町四丁目）で開かれました。フクが一番おいしいとされる「ふくの日（2月9日）」にちなみ、毎年行われています。

当日はあいにくの雨模様にもかかわらず、会場には1000人分の無料ふく鍋や物産即売会での買い物などを目当てに、約2万人が訪れました。フクのつかみ取りができるコーナーもあり、挑戦した子どもたちも、それを見守る大人たちも笑顔で楽しんでいました。



商工会館会場(2月9日)

下関市総合計画後期基本計画ワークショップ

2月9日から23日まで、市内20会場で下関市総合計画後期基本計画ワークショップがありました。「夢と目標」「元気・活性化」「安心・安全満足度」をテーマに、地域の課題を整理しながらまちづくりの方向性を提案する参加型の共同作業です。

参加した延べ358人は、真剣な表情で活発に意見を出し合っていました。



市民と市長を結ぶコラム
市長室から

こんにちは

に友好都市の中国・青島市へも、船で行きました。下関港から出発している航路があるのだから、積極的に利用しない手はありません。市長として、そこで働く人たちに元気になってほしいという思いがあるからです。

本市と釜山広域市を結ぶ関釜航路は、1970年（昭和45年）に、日本初の国際定期フェリーとして就航しました。今年40周年を迎え、下関市では、市民の皆さんと共に祝うために今年1年間を「関釜航路の年」と定めています。

本州の中で東アジアから一番近い玄関口の下関港。その下関港と



関釜フェリー「はまゆう」の船内にて

韓国へは関釜航路で 関釜航路40周年

こんにちは。市長の中尾友昭です。

1月に韓国・釜山広域市を訪れました。本市の姉妹友好都市の中で、一番近い都市です。市長就任1年以内に訪問し、釜山広域市長と友好を深めたいという思いがありました。

釜山広域市へは、関釜航路を利用。昨春秋

釜山港を結ぶ関釜航路は、人や物の流れが多く、日本にとっても重要な航路です。また、下関港は、日本一通関が早いというサービスもあり、最近では「空港と競争する港湾」ともいわれます。下関港の昨年の韓国への輸出額は全国の港の中で第4位、輸入額では第6位という実績を残しています。下関港にとって韓国との関係は、大変重要であると考えています。

「港湾都市」は、本市の特色です。企業の目的が「顧客の創造」なら港湾都市の市長の仕事は、港から人・物・情報の交流を増やし、まちを元気にすること。これが私に課せられた大きな仕事の一つです。例えば、修学旅行で関釜航路を使ってお互いの国を行き来するなど、子どもたちの交流を拡大し、釜山広域市とのきずなを深めたいと思っています。

船旅は、時間に追われている現代人にとって、移動時間がゆとり取れるぜいたくな旅です。皆さん、今年は40周年を祝い、ぜひ関釜航路でゆとりのある旅を楽しんでみてはいかがでしょうか。